

リレー随想

私たち夫婦の仲人が以前、大学で講演して、反響はとてよかったそうだが、そのときの気持ち話を話してくれたことがある。

「自分なんかそう大した人間でもないのに、大勢の人間の前で、偉そうな話をして…、講演というのは、終わったあとで、落ち込むぞお」。そう言って、笑っていたが、私も同様の経験をさせていただいた。

縁があつて、あるセミナーに参加させてもらっているが、この天草法人会から講演の依頼があつて、引き受けた。「おれみたいな男を、そこまで信頼してくれるのか」と「人生意気に感ず」で、依頼してくれた人の信頼に応えなければならんと、話の内容を急いでまとめた。時間もあまりなかったのである。家でできたのを読んで、話のスピードや時間をはかって、大体のところ、これでいいだろうと天草まで行った。

途中事務局により、「今から天草に講演に行く」と一言いう

講演旅行(その1)

土地家屋調査士

田口 一法さん



と、事務局の人は驚いていた。ほかに立派な人が大勢居るのに何で? と思ったことだろう。誰よりも、この私がそう思っているのだから…。事務局からは、あとで交通費を出してくれるとのこと。

講演の時間は、夕方の六時か

らになっていた。天草といっても本渡の方だが、そちらのホテルが会場になっていた。少し早めに着き、フロントで予約してあった部屋のかぎをもらった。部屋の中に居てもなんとなく落ち着かなかったもので、新聞でも読もうとロビーへ降りると、天草の事務局から、高田さんとおっしゃる方が、私の世話をしてくださることになっているそう、向こうからあいさつにきていただいた。

しばらくして、今回の講演を依頼してくださった事務長の井上さんから、天草法人会の会長さんを紹介していただいたが、こういう偉い人と、さしで話したことはあまりないので、緊張した。

「昔ここで取れたアサリは実も大きくて、おいしかった」と、こんなことを四、五人の人を相手に会長さんは話しておられた。「いい人だなあ、この人のためにも、キチツとした話をしないといけない」と、「人生意気に感ず」という言葉を、自分の心の中に、強く刻み込んだ。ただ、そうしようとすればするほど、冒頭に紹介した仲人の言葉が、何となく、頭の中をかすめていく…。

(熊本市花園、47歳)